資料2

自動運転の段階的実現に向けた調査検討委員会
海外視察要領（案）

■ 目的

遠隔型自動走行システムを始めとする新規性の高い自動走行システムに関する公道実証実験を既に実施している又は実施する予定がある旨の情報が得られている国について視察を行い、システムの機能、実験の実施状況、法制度やインフラの整備状況、実用化に当たっての課題等について調査する。

■ 視察日程

平成28年10月頃

■ 視察実施者

調査検討委員会事務局（警察庁職員を含む。）

■ 視察概要

国名	訪問先候補	内容
イギリス	・ イギリス運輸省 ・ ミルトンキーンズ ・ コベントリー ・ グリニッジ	イギリス運輸省が公道実証実験のためのガイドラインを策定・公表している。ミルトンキーンズ及びコベントリーでは、Lutz Patherfinderという自動走行ポットを歩道で走行させる実証実験が行われ、また、グリニッジでは、GATEwayプロジェクトとして、自動走行車の実証実験が行われているとされていることから、実験の実施状況を視察し、実験の実施主体や行政機関から課題等を聴取する。
オランダ	・ オランダ運輸省 ・ デルフト工科大学 ・ ヘルダーラント州 ヴァーヘニンゲン	ヘルダーラント州ヴァーヘニンゲンにおいて、デルフト工科大学が中心となったWEpodsプロジェクトとして、遠隔型自動走行システムを用いた世界初の無人での公道実証実験が行われているとされている。また、オランダが主導するEU Truck Platooning Challenge 2016プロジェクトとして、欧州6か国から公道をトラックが隊列走行し、ロッテルダムに集結するという大規模実証実験が行われた。これらについて、実験の実施状況を視察し、実験の実施主体や行政機関から課題等を聴取する。
ギリシャ	・ ギリシャ運輸省 ・ トリカラ	トリカラでは、CityMobil2プロジェクトとして、遠隔型自動走行システムを用いた無人の自動走行バスを公道で運行させる大規模実証実験が行われ、無人自動走行車の公道走行のために法令改正を行った最初のEU加盟国とされていることから、実験の実施状況を視察し、法令改正の具体的内容やバス運行に当たっての課題等を聴取する。